

平成25年5月30日

中央漁業指導所・水産試験場

環境調査結果のお知らせ

平成25年5月30日午前11時から野見湾の環境調査を行いましたので、結果をお知らせします。

概況

湾内の環境は、水温22～25℃、塩分27～34、溶存酸素濃度5～9mg/lでした。
透明度は3～4mで、有害種のカレニア・ミキモイが多く確認されました。今度の動向に注意が必要です。

水温と塩分(表1・2)

湾内の水温は22.3～24.8℃、塩分は27.5～33.7でした。前回調査時(H25.5.23)と比較して、水温は1℃上昇、塩分は降雨の影響で0～5低下していました。

溶存酸素濃度(表3)

湾内の溶存酸素濃度は5.38～8.81でした。

プランクトン(表4・5)

透明度は濁りの影響等でやや悪く、3.1～4.3mでした。
検鏡の結果、魚類に対して非常に有害なカレニア・ミキモイが最高360cells/ml確認されました。
野見湾では、本種赤潮によって平成2年、12年、18年に漁業被害が出ておりますので注意が必要です。その他、有害種コクロディニウム・ポリクリコイデス、ケラチウム・フルカ等も確認されています。

海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、よく洗ったペットボトルに海水を汲む等して、中央漁業指導所か水産試験場まで連絡してください。



表1 水温(°C)

調査地点	湾奥ブイ	大室戸	馬の背	ガラク	勢井	平均※	前回調査(H25.5.23)	
							平均※	前回との差 今回-前回
0m	24.8	24.0	24.1	23.6	24.4	24.2	22.8	1.4
2m	23.5	23.6	23.4	23.2	23.4	23.4	22.7	0.7
5m	23.0	23.0	23.0	23.2	23.1	23.1	22.4	0.7
10m	23.0	23.0	23.0	22.9	23.0	23.0	22.2	0.8
B-1m	22.6	22.4	22.3	22.8	22.5	22.5	21.7	0.9

表2 塩分

調査地点	湾奥ブイ	大室戸	馬の背	ガラク	勢井	平均※	前回調査(H25.5.23)	
							平均※	前回との差 今回-前回
0m	27.5	30.4	29.3	30.6	29.2	29.1	33.6	▲ 4.5
2m	32.4	32.1	32.4	32.5	32.4	32.4	33.6	▲ 1.2
5m	33.3	33.4	33.5	33.3	33.4	33.4	33.7	▲ 0.3
10m	33.5	33.6	33.5	33.7	33.5	33.6	33.7	▲ 0.1
B-1m	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	▲ 0.0

表3 溶存酸素濃度(mg/l)

調査地点	湾奥ブイ	大室戸	馬の背	ガラク	勢井	平均※	前回調査(H25.5.23)	
							平均※	前回との差 今回-前回
0m	6.84	7.01	6.78	6.40	6.81	6.67	7.28	▲ 0.60
2m	8.61	7.31	8.81	5.98	5.39	7.80	7.14	0.66
5m	6.04	5.87	5.57	5.95	5.34	5.85	6.22	▲ 0.37
10m	5.52	5.38	5.40	6.08	5.25	5.67	5.95	▲ 0.28
B-1m	5.80	6.30	5.93	6.23	5.91	5.99	5.89	0.09

※湾奥ブイ・馬の背・ガラクの平均値

表4 水深・透明度(m)

調査地点	湾奥ブイ	大室戸	馬の背	ガラク	勢井
水深	17.4	19.2	25.2	12.5	18.5
透明度	3.5	3.5	3.1	4.0	4.3
前回透明度	3.7	-	4.2	5.5	-

表5 プランクトン(cells/ml)

調査地点	水深	カレニア・ミキモトイ	カレニア・パピリオナセア	コクロディニウム・ポリクリコイデス	ケラチウム・フルカ	ミリオネクタ・ルブラ	プロロセントラム・デンタータム	ジャイロディニウム属 (ドミナンス、スピラレ)
		湾奥ブイ	0m	0	0	2	0	8
	2m	0	4	10	2	1	30	14
	5m	0	0	0	2	1	110	6
大室戸	0m	1	2	0	0	1	10	8
	2m	62	9	22	16	0	170	5
	5m	7	0	0	13	1	70	7
馬の背	0m	5	4	2	0	1	18	6
	2m	360	1	4	31	0	3500	3
	5m	17	1	2	18	0	1900	0
ガラク	0m	1	2	0	0	2	0	3
	2m	0	7	0	0	0	12	2
	5m	17	0	0	9	0	50	2
勢井	0m	0	0	0	0	2	3	4
	2m	0	0	0	0	3	7	2
	5m	2	1	0	2	0	4	3

漁業被害が想定される細胞密度

- カレニア・ミキモトイ: 数百~数千cells/ml(へい死)
- カレニア・パピリオナセア: 赤潮発生時(へい死)
- コクロディニウム・ポリクリコイデス: 数百~1,000cells/ml(へい死)
- ケラチウム・フルカ: 100cells/ml(餌食いの悪化)
- ミリオネクタ・ルブラ: 10cells/ml(貝類の赤変化)